



# キハダ

## 中西部太平洋

主な漁業と漁期

まき網(冷凍):周年(未成魚・成魚)  
はえ縄(生鮮):周年(成魚)

## 生態

昔は缶詰や魚肉ソーセージの原料でしたが、現在では刺身や寿司ネタなどの生食用にも供給されています。

### ●分布・回遊

熱帯域から温帯域にかけて広く分布しています。夏季には南北両緯度40° 近くまで分布しますが、冬季には南北両緯度30° 以上に分布することは稀です。

若齢のキハダは、同じ大きさのメバチやカツオと群を作ることがあり、主に表層に分布します。成長するとキハダ単独の群れとなり、より深い層にも分布するようになります。

### ●産卵期・産卵場

水温24℃以上の水域で、ほぼ周年行われていますが、熱帯域における産卵盛期は西部太平洋で12～翌年1月、中央太平洋で4～5月と報告されています。

### ●成長・成熟

成長は1歳で尾叉長60cm程度、2歳で110cm程度、3歳で130cm程度に達します。7～10年と考えられています。

成熟は雌の生物学的最小形は体長60cm程度ですが、50%成熟するのは105cm程度と報告されています。



キハダ幼魚(成魚と異なり背鰭と尻鰭は小さい)

## 漁業・資源動向

### 【資源】

#### 資源

- ・乱獲状態ではない
- ・漁獲の強さ
- ・過剰ではない

・ 漁獲がないと仮定して推定した産卵資源量に対する、実際の産卵資源量の比は、2000年代半ばまで減少傾向を示し、それ以降は近年まで概ね安定しています。また、漁獲死亡係数はなだらかに上昇し、近年は安定しています。

・ 2018年から2021年の平均産卵資源量のレベルは限界管理基準値を上回っており、2017年から2020年の平均漁獲死亡係数は限界管理基準値を下回っていると推定しました。

・ これらのことから、3年に一度実施される最新の資源評価(2023年)では、資源量は安定しており、漁獲量も持続的である可能性が高くなっています。

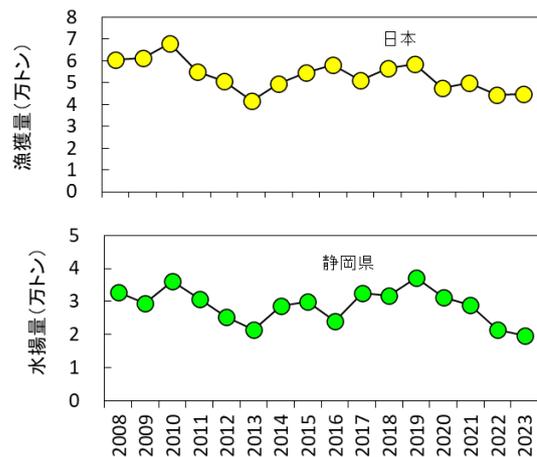
《国の資源評価へのリンクはこちら》

要約 [https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_14S\\_YFT-WCPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_14S_YFT-WCPO.pdf)

詳細 [https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_14\\_YFT-WCPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_14_YFT-WCPO.pdf)

### 【漁業】

- ・ 2008年以降、中西部太平洋では年間52.5～75.4万トン、日本では年間4.2～6.8万トンの漁獲量で推移しています(図上)。また、静岡県への水揚量は、2.1～3.7万トンで推移しています(図下)。
- ・ 主に遠洋のまき網で漁獲されています。



日本のキハダ漁獲量の推移(上)と  
静岡県のキハダ水揚量の推移(下)

担当者の一言:夏季に静岡県沿岸に小型個体が来遊し、地域によって「キメジ」「キメ」「チャップ」などと呼ばれます。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科

054-627-1817